

事後評価シート

番号	事業名 箇所・地区名	市町村名	事業概要	事業期間			事業費 (百万円)	対象 理由 ※2	事後評価の結果 ※3	総合評価	担当課	特記事項																																																
				着手	※1 再評価	完成																																																						
1	畑地帯総合 整備事業 南今泉地区	宮崎市 清武町	用水路 A=174 ha 排水路 L=120 m 農道整備 L=705 m 暗渠排水 A=0.3 ha	H14	—	H23	1,248	②	<p>【1 全体計画】</p> <p>受益面積： 174.0 ha (水田 54.0 ha、畑 74.0 ha、樹 46.0 ha)</p> <p>主 要 工 事</p> <ul style="list-style-type: none"> 用水路工 174.0 ha (水田 54.0 ha、畑 74.0 ha、樹 46.0 ha) 農道工 7.0 ha (水田 0.0 ha、畑 7.0 ha、樹 0.0 ha) 排水路工 3.0 ha (水田 0.0 ha、畑 3.0 ha、樹 0.0 ha) <p>受益者数： 305 人</p> <p>【2 事業目的】</p> <p>本地区は昭和54年から県営ほ場整備事業南今泉地区等で区画整備されているが、水田用水は、主として清武川水系の中小河川及び域内ため池等に依存しているものの、水源に乏しく小規模な用水施設であるため用水不足を来たし不安定である。また、畑地帯においてはかんがい施設が未整備のため、施設園芸等の営農計画が実現できず、安定的な農業経営に支障を来している。このため、本事業で、国営かんがい排水事業大淀川右岸地区の天神ダムを水源として、畑地かんがいと水田用水補給を行い、畑地かんがい施設を整備し、併せて農道及び排水路整備を行い、収益性の高い安定した営農形態を目指す。</p> <p>【3 事業効果の発現状況等】</p> <p>安定的な用水確保に資する用水路のパイプライン化により、ハウスが導入され、収益性の高いきゅうり、いちご、なす等の他、花卉ではスターチス、露地野菜でも新たにピーマン、キャベツが導入される等、品目の多様化により農地利用の多角化が図られている。</p> <p>また、地域の担い手への農地の集積が進む等、整備後の事業効果が確認できる。</p> <p>【営農体系の変化及び収益性(試算)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>整備前</th> <th>現在 ※1</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主 水稲</td> <td>48.7 ha</td> <td>49.7 ha</td> <td>1.0 ha</td> </tr> <tr> <td>施設園芸</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 野菜(きゅうり、いちご、なす等)</td> <td>0.0 ha</td> <td>13.2 ha</td> <td>13.2 ha</td> </tr> <tr> <td> 花卉(スターチス)</td> <td>0.0 ha</td> <td>1.4 ha</td> <td>1.4 ha</td> </tr> <tr> <td>露地野菜 ※2</td> <td>129.0 ha</td> <td>128.8 ha</td> <td>△ 0.2 ha</td> </tr> <tr> <td>かんきつ類(みかん、日向夏みかん)</td> <td>44.6 ha</td> <td>23.4 ha</td> <td>△ 21.2 ha</td> </tr> <tr> <td>作物生産額(試算) ※3</td> <td>597,367千円</td> <td>718,666千円</td> <td>121,299千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20.3%増</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 「現在」の欄の面積には、調査時点で作付準備等により作付けされていない農地の面積は含まれていない。</p> <p>※2 主に大根、キャベツ等の露地野菜、飼料作物。</p> <p>※3 作付け面積の増減に伴い、農林水産統計資料等を元に試算すると121,299千円(20.3%増)の生産額が増となる。</p> <p>【農地の変化】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>整備前</th> <th>現在</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農地集積面積</td> <td>21.1 ha</td> <td>35.7 ha</td> <td>14.6 ha</td> </tr> <tr> <td>農地集積率※</td> <td>12.1 %</td> <td>20.5 %</td> <td>8.4 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>※農地集積率＝農地集積面積／受益面積×100</p> <p>【4 事業による環境の変化や環境の保全】</p> <p>事業実施区域内に特に配慮すべき環境資源は確認されておらず、事業による環境の変化等も特にならない。</p> <p>【5 施設の維持管理状況】</p> <p>清武町土地改良区において適切に維持管理を行うとともに、永田・黒坂農村環境保全組合、木原農村環境保全組合の活動団体により多面的機能支払制度に取組み、多面的機能の維持・発揮のため、積極的に取り組んでいる。</p> <p>【6 今後の課題等】</p> <p>更に当地域の生産規模拡大を図り、地域の担い手への農地集積・集約化を進め、担い手の育成支援を図っていく。</p>		整備前	現在 ※1	増減	主 水稲	48.7 ha	49.7 ha	1.0 ha	施設園芸				野菜(きゅうり、いちご、なす等)	0.0 ha	13.2 ha	13.2 ha	花卉(スターチス)	0.0 ha	1.4 ha	1.4 ha	露地野菜 ※2	129.0 ha	128.8 ha	△ 0.2 ha	かんきつ類(みかん、日向夏みかん)	44.6 ha	23.4 ha	△ 21.2 ha	作物生産額(試算) ※3	597,367千円	718,666千円	121,299千円				20.3%増		整備前	現在	増減	農地集積面積	21.1 ha	35.7 ha	14.6 ha	農地集積率※	12.1 %	20.5 %	8.4 %	収益性の高い品目への転換や農地の集積などにより担い手の育成が図られ、事業効果の発現が認められる。	農村計画課	特になし
	整備前	現在 ※1	増減																																																									
主 水稲	48.7 ha	49.7 ha	1.0 ha																																																									
施設園芸																																																												
野菜(きゅうり、いちご、なす等)	0.0 ha	13.2 ha	13.2 ha																																																									
花卉(スターチス)	0.0 ha	1.4 ha	1.4 ha																																																									
露地野菜 ※2	129.0 ha	128.8 ha	△ 0.2 ha																																																									
かんきつ類(みかん、日向夏みかん)	44.6 ha	23.4 ha	△ 21.2 ha																																																									
作物生産額(試算) ※3	597,367千円	718,666千円	121,299千円																																																									
			20.3%増																																																									
	整備前	現在	増減																																																									
農地集積面積	21.1 ha	35.7 ha	14.6 ha																																																									
農地集積率※	12.1 %	20.5 %	8.4 %																																																									

※1 再評価の実施年度については、直近のものを記載すること。

※2 対象理由は、「①：全体事業費が基準額以上であり、かつ事業完了後一定期間が経過した事業」又は「②：再度、事後評価の必要があると判断した事業」の番号を記載する。

※3 事後評価の際には、出来る限り客観的な数値を記載すること。